

高山の文化を高めた人々

78

音楽教育に捧げた生涯

中村好明

中村隆夫



90歳のラスト指揮(全飛合唱祭)

の音楽教育」を生み出すことになりました。



山本弘氏
理論でまとめ全国展開



下通進平氏
教材製作協力 大進社

大進社刊)、補助教材の最先端を行く画期的なものでした。後の「ふしづくり」に繋がります。音楽指導に悩む先生は、誰でも教えられる指導方法を求めています。

「教える」授業から「育てる」授業に、更に「主体的に学ぶ」授業となる「ふしづくりの教育」は、好明の実践と山本弘の理論で完成します。

昭和四十年代「ふしづくり」は全国の注目を集めました。全国から毎年数千人の教師が受講に訪れ、現在でも広島大学など各地で実践研究が進められています。

昭和四十年「飛騨音楽教育研究会」が発足し初代会長に就任。夜間や休日に行われる、教師の自主的な学びの場であり、現在もふしづくり教育の推進母体となっています。

飛騨出身の音楽家が広く全国で活躍しています。情熱ある飛騨の教師達によって育まれた賜物と思います。

て残されています。その他、教材曲や村歌・慈光園歌・幼稚園歌・清徳会の歌など作曲は百曲を超えています。

南小退職後は短大附属幼稚園長十四年、その「幼児音楽教育」を全国に赴き指導。

後進の指導者育成、少年少女合唱団、市民吹奏楽団、南友・赤い靴などコーラス指導、県民オペラ飛騨圏域監督、高齢者オペラ「笠地蔵」の創作指導など、人々に慕われ、九十歳になるまで飛騨の音楽文化に貢献してきました。

例えば「何も無い時代」にあった「何か」が好明の生き甲斐だったのかもしれない。今は「何でもある時代」ですが「何か」は…。

平成三十年逝去、享年百一歳。



2010年在り日の両親(母 静枝と)

【主たる表彰】

高山市文化協会顕彰

(平成元年)

市制六十周年市長表彰

(平成八年)

岐阜県芸術文化奨励賞受賞

(平成十四年)

瑞宝双光章叙勲

(平成十七年)

高山市芸術文化顕彰受賞

(平成二十三年)

「なぜ飛騨ほどの音楽分野を見てもレベルが高いのですか」、こんな嬉しい質問をされることがあります。私は「飛騨人の素養であり、沢山の優れた指導者がいたから」と答えています。

父・好明は大正六年萩原で飯島家三男として誕生。昭和七年高山尋常小高等科から岐阜師範(岐阜大学)に入学。その時、好明の人生を決定したのが、同じく飛び級で岐阜師範に入学した「下通進平・山本弘・中村好明」の三盟友でした。

昭和十二年師範を卒業、湯屋小・高山尋常小(国民学校)と赴任。その間に、独自の音楽教育を開発、後に日本の音楽教育史に残る「ふしづくり



西小学校職員による演奏 好明:オルガン(昭和26年)

好明は校歌の普及にも務め小規模校を中心に無報酬で作曲を引き受けました。西小・宮小・三枝小・岩滝小・清見中・下呂西小・萩原小・宮川中ほか二十校にも。更に合唱曲や行進曲などの校歌編曲も画期的でした。多くが廃校されたのは残念ですが地域愛称歌とし